

こども盆栽流こどものまち指標（こま指標）について

本指標の目的

今後3年間で、こども盆栽が関わるこどものまちのプログラムの中にどのような学びが生じるかを横断的に判断すること。

手法

こども盆栽が関わるこどものまちのプログラム前後に参加者の子どもたち（小学1年生～中学3年生）を対象に記名式のアンケート調査（別紙参照）を行い、1日の変化、数日間の変化、また1年間、数年間の変化を読み解く。記名式にするのは、どの程度のリピーターが参加しているか、また、リピーターの子どもたちにどのような変化が現れているのかを客観的に判断するためである。

プログラム実施前には、全25問からなるアンケート調査を、プログラム実施後には、全20問からなるアンケート調査を行う。

実施後のアンケートに最後の5問が含まれていないのは、習慣を問うもので、1日で変化するものではないからである。この5問に関しては、単発のプログラムではなく、1年間、または数年間の追跡調査を元に、結果を出す。

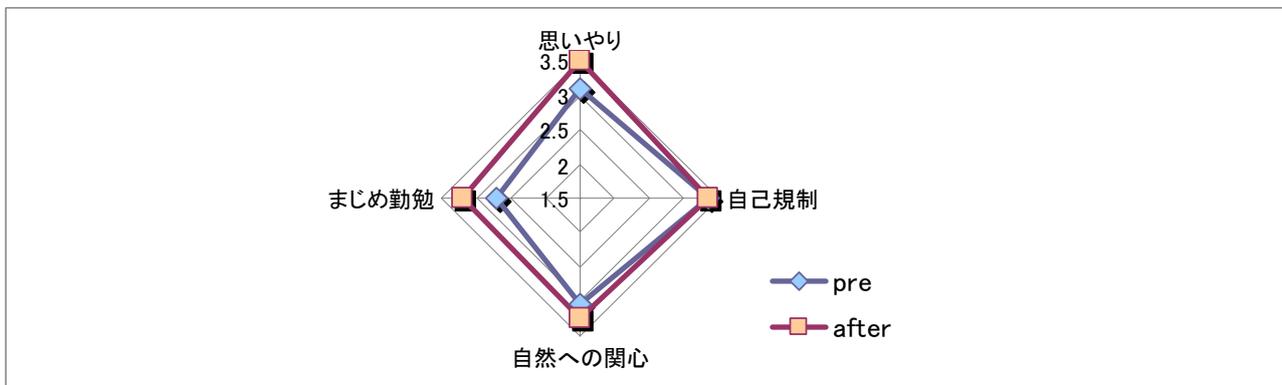
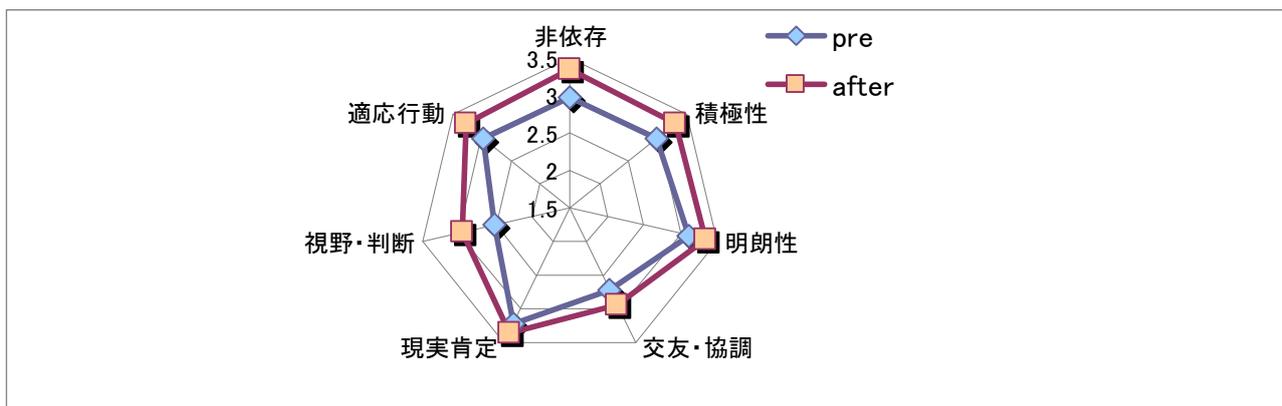
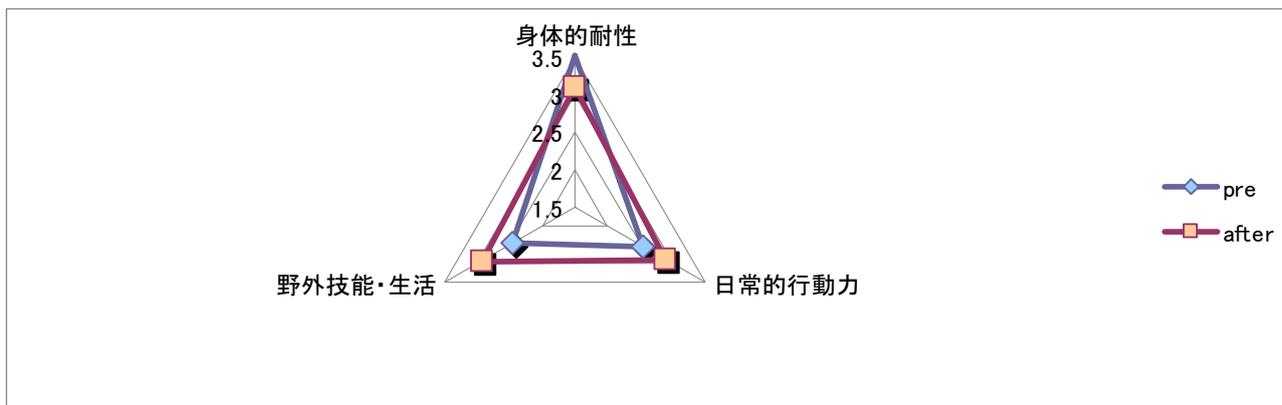
また、この5問はプログラムの参加者の質を判定するためのものでもある。例えば、「日常的に読書の習慣のある子どもが多いプログラムでは、こういった効果が得られやすい」など、参加者の質によって効果の変わりやすいプログラムでもあると考え、このような項目を用意した。

最初の20問に関しては、「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階で回答し、「とてもよくあてはまる」を5点、「まったくあてはまらない」を1点で換算、前後の差を出して、プラスの数が多いほど高評価と計算する。

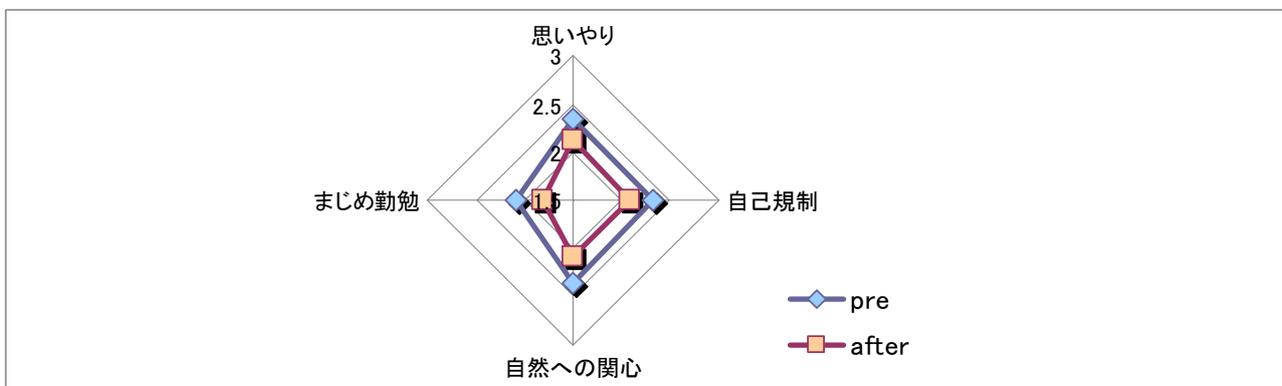
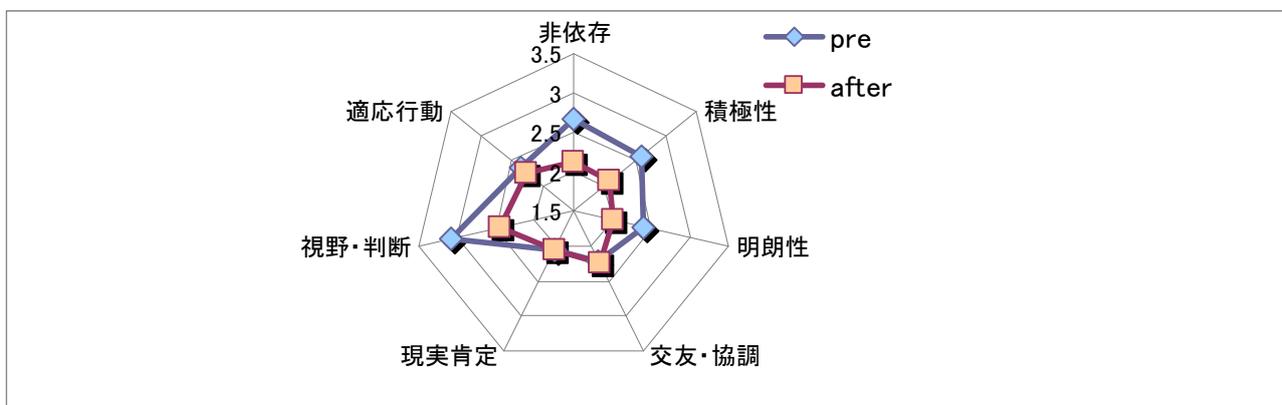
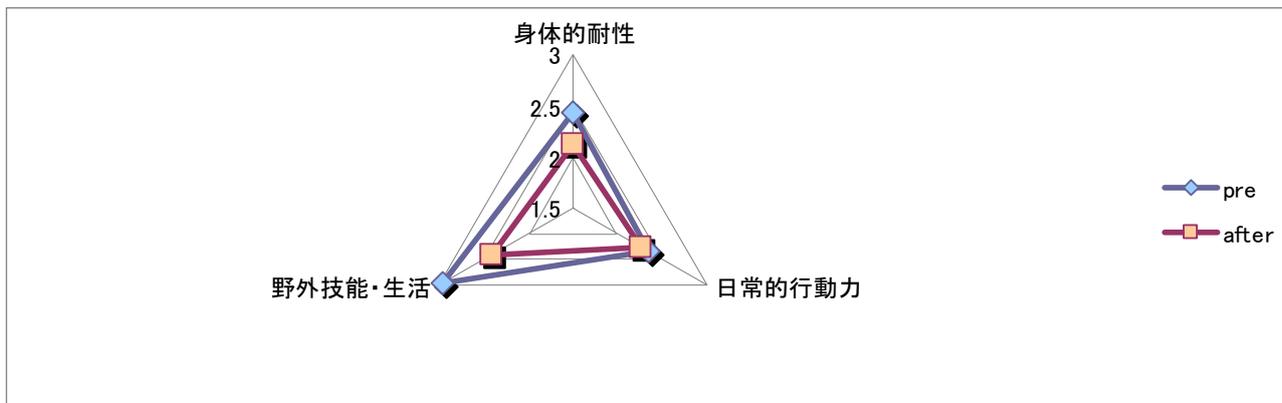
個人の結果は本人に「〇〇で賞」として返し、体験をラベリングしてしまいこませる工夫をする。このことによって、すぐに埋もれ忘れてしまう体験をきちんと整理して価値ある自分を認識する手助けとなるようにする。

また、今回参考にしたIKR調査に関しては、過去2年間に渡り、こどものまち「ミニひがし」でデータを取得している。また、学校教育の中で弊社団体が行ったIKRの結果（大阪市内N小学校）も事例として紹介する。学校で実施した場合は5日間以上と、教員を介して子ども達と関わるため、子どもたちとの関係性が築きやすいため、数値が上がっているなどの傾向が見られる。今後も各地域で指標を継続して取ることでこれらのデータの基礎値およびその後の結果が変わってくるのが想定される。

大阪市内N小学校 5日間のキャリア教育プログラム実践後のIKR前後調査結果



ミニひがし 1日間のこどものまちプログラム実践後の IKR 前後調査結果



この調査によって明らかにしたいのは、以下の 10 の能力についての変化である。

それぞれにつき、2つの設問で回答する形をとることで、より正確な効果測定を期待する。

上位能力	下位能力（〇〇で賞）	調査項目（回答用紙にはふりがなをふっている）
心理的・社会的能力	非依存（自分をしっかりもっているで賞）	1. いやなことは「いや」とはっきり言える
		16. 小さな失敗をおそれない
	積極性（どンドン前に進めるで賞）	8. 自分から進んでなんでもやる
		19. 前向きに物事を考えられる
	視野・判断（しっかり計画できるで賞）	3. 先を見通して、自分で計画を立てることができる
		20. 自分で問題点や課題を見つけることができる
	明朗性（明るく元気で賞）	4. だれにでも話しかけることができる
		11. 失敗しても立ち直るのがはやい
	現実肯定（そのまま大きくなりま賞）	7. 自分のことが大好きである
		13. だれにでもあいさつができる
交友・協調（友だちいっぱい得賞）	5. たくさんの人に好かれている	
	17. だれとでも仲良くできる	
適応行動（空気が読めるで賞）	6. 人の話をきちんと聞くことができる	
	18. その場にふさわしい行動ができる	
徳育的能力	自己規制（しっかりがまんでできるで賞）	10. 自分勝手なわがままを言わない
		12. お金や物のむだづかいをしない
	まじめ・勤勉（まじめにはたらくで賞）	9. いやがらずによく働く
		15. 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる
	思いやり（思いやりがあるで賞）	2. 人のためになにかをするのが好きだ
		14. 人の心の痛みがわかる

参考

独立行政法人国立青少年教育振興機構「IKR 調査（簡易版）」

南大阪地域大学コンソーシアム「キャリア教育プログラムの効果測定」